

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073200240
法人名	株式会社ウェルフェアネット
事業所名	グループホームさわやかテラス大野城
所在地	福岡県大野城市牛頸4丁目5-29
自己評価作成日	平成23年7月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成23年7月28日	評価結果確定日	平成23年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あるがままに 楽しく ゆったりと」生活して頂けるよう常に入居者、家族の希望を把握し、思いに添った暮らしの実現に努めている。また、住み慣れた地域で安心した生活を送って頂けるように、地域との交流も大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中に位置し、ホームの前には公園があり、緑の芝は利用者の散歩には優しい環境である。同法人の7事業所は同じ理念と家訓を掲げ、職員の異動の際も同じ理念と家訓でケアが出来る様に配慮されている。開設時の家訓は、「ありのままに 楽しく ゆったりと」であったが、利用者から“ありのままに”ではさせられているという意味合いなので、“あるがままに”が正しいのではないかと提案され、その後変更されており、利用者本位の姿勢が伺える。職員は毎日のケアの中で利用者を優先し、表情を見ながら居心地良く過ごして頂ける様に努めている。また、職員の中には、家訓と理念に共感して入職を希望した方もいる。代表者、職員は、ご家族との話し合い、市町村との連携、他事業所との情報交換等、地域の一員として日常的な交流を積極的に行い、更なるサービスの向上に努めている。今後ますます期待できるホームである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家訓「あるがままに楽しくゆったりと」基本理念「住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせる老後」を掲げている。常に親しみを持ってさん付け呼称を行い、笑顔の絶えない日常を目標として取り組んでいる。スタッフの心得をカンファレンスで全員で唱和し共有を図っている。	同法人の7事業所は同じ基本理念と家訓を掲げ、職員の異動の際も同じ目線でケアが出来る様にしている。毎月の運営会議で家訓に沿って取り組みを検討している。一日の業務の中で利用者を優先し、表情を見ながら居心地良く過して頂ける様に努めている。職員の中には、家訓と理念に共感して入職を希望した方もいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物や散歩時の挨拶、クリーンディの参加、また地域の夏祭り、カラオケ教室に出掛けている。防災訓練では地域の消防団の協力を頂いている。月1回公民館に区報を貰いに行き行事を把握し参加するように努めている。	公園で子供連れの方や犬の散歩をされている近所の方と日常的に交流したり、近くの保育園の前を散歩し元気な園児の姿を見て楽しまれている。また、公民館に区報をもらいに行ったり区の案内等を見て地域行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回のカンファレンスの場でスタッフ全員で話し合っている。今年はキャラバン・メイト養成研修の参加を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。テラスでの日々の暮らしと現状を報告し互いに意見を出し合いそれをサービス向上に活かしている。外部評価の自己評価及び結果も報告している。	運営推進会議では、利用者やサービスの状況、ヒヤリハットや外部評価の報告等を行っている。入居前に関わった民生委員が、入居後の利用者状況など確認されている。花見等の企画では、花見場所やコミュニティバスの利用法を教えて頂いている。昨年は消防署の職員に災害の講演を依頼し参加して頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会があれば法人代表、責任者、総務担当が市町村担当部所に伺ったり、「大野城市地域密着型サービス事業所情報交換会」に出席し情報交換を行って、サービスの質の向上に努めている。	事業所情報交換会に参加し納得するまでテーマを話し合っている。市役所へ出向くと空き状況を聞かれ、利用者の紹介を受ける事もある。大野城市のどこのグループホームに入っても安心できるよう、市と事業所が連携してサービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、言葉の拘束、薬の拘束等あってはならない事であり研修やカンファレンスにおいて話し合っている。出入り口の鍵は全て掛けておらず、自由に出入りできるようにしている。	一人ひとりの出入りを引き止めずに後から見守っている。地域の方とは町の行事の際に利用者と顔見知りになっており、どこを歩いているよと連絡を受けた事もある。地域の交番やコンビニには顔写真を渡し協力して頂いている。代表者、職員は研修やカンファレンスで身体拘束について正しく理解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行なっている。拘束、虐待等はあってはならない事であり、カンファレンスで入居者の立場に立ってサービスを行なうよう話し合っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフの一人が「高齢者・障害者安心サポートネット」の成年後見人のボランティア活動を行なっている。又、全体研修会において勉強会を行っている。	入居時に資料に基き説明を行っている。職員は相談があれば担当者へスムーズに繋ぐ流れを周知している。現在2名の方が利用されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族に重要事項等契約内容を書面で示しながら疑問点が無いよう十分に説明を行なっている。又、入居後も質問があればその都度説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者や家族等と密な関係を保ち意見、要望を言い易い環境を作っている。そして意見や要望は記録に残し話し合いを持って全員で解決、共有するよう心掛けている。	家族会では、家族のみの話合いの場を設け、内容を家族会会長が報告する等工夫している。家族の面会は週1～2回、遠方の方も月1回は来られている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見提案があれば責任者や代表に随時話しができる体制にある。代表は常に入居者、家族、職員に接触を持っている。全員で「より良いケア」を目指しているので互いの意見提案は極めて有意義であり、良き意見提案は実態に則し反映させている。	職員の意見はリーダーから責任者・代表者へとつなぐ体制が出来ている。最近では職員が防災委員会の設置を要望して実際に設置までに至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績はカンファレンスの場で職員全員に報告している。資質が伴えばリーダーや責任者補佐に抜擢する人事制度があり職員があり職員が向上心を持って勤務できる職場である。自己研鑽を評価の対象にしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢、経験の有無は問わず採用している。従って職員は20代～60代にわたっている。又、自己研鑽や資格取得を積極的に支援している。	性別や年齢、経験の有無を問わず採用を行っている。介護福祉士やケアマネジャー等の資格取得を積極的に支援している。リフレッシュ休暇も設定され、遠方出身者は帰省等に利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修の年間計画にも認知症ケアの専門性、グループホームにおける職員の資質を盛り込み常にケアについて学習している。又カンファレンスの場で折に触れ話し合っている。	人権教育は、法人内の研修で取り組んでいる。出席者はその内容をカンファレンスで職員へ伝達講習している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当社はGH4事業所と小規模多機能型居宅介護施設3事業所を運営しており、教育は全事業所を一つと考え年間スケジュールを組み、職員の段階に則して育成研修を行っている。又、外部研修・講習会等も勤務ローテーションに組み入れ業務として積極的に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は福岡県GH協議会副会長を務めている。GH協議会の研修に積極的に参加している。又、「大野城市地域密着型サービス事業所情報交換会」に出席し他施設との意見交換を行ったりしてサービスの向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活暦や入居に至る経緯を把握し、寄り添いながら傾聴に努め、その人に合った接し方・関係づくりを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来訪時などに全スタッフで会話をもつ事を心掛け、関係を作ると共に家族の思いや願いをケアに取り入れている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	普段の生活や会話の中で、本人や家族が必要とする支援を聞き出し、ケアを実施している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添い、本人本意の生活をして頂き、出来ない所のみお手伝いし、一緒に生活をしている家族のような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との繋がりを第一に考え、家族の心の動きを理解し、入居者の方を支援している。外出や通院の際には、家族にも声を掛け一緒に来て頂いている。		
22	(11)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの情報と現状を家族・本人から聞き、今まで関わっていた地域の行事や交友関係が維持できる様に、スタッフが間に入り連絡を取ったり、行きつけの美容室や、カラオケ教室への送迎、付き添いを行っている。	入居前の交流関係が加齢とともに少なくなる傾向にあるが、維持できるよう支援しており、友人とコンサートや温泉等に外出している方もおられる。ご自分の携帯電話で外出の約束をされる方もおられ、その際も外出支援に努めている。	
23		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活で、馴染みの関係や個々の性格等を理解し、入居者同士楽しみを共有できるように努めている。トラブルがある場合は、スタッフがさりげなく和ませ、明るい雰囲気を作っている。		
24		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した方のご家族がボランティアで、定期的にケアメイクに来て下さったり、季節の果物等を持って来てくださっている。退居後も、さわやか通信等を定期的に送付して関係を絶たないようにしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の言葉・行動・表情等細かく記録し、全スタッフで共有して本人の望む生活・困っている事の把握に努めている。又、ご家族にも情報を頂いている。	日常生活で昔の話や雑談の中から汲み取っている。会話が出来る環境作りも工夫している。失語症の方は筆談や手の動き、表情から汲み取り、家族と情報を共有しながら本人の意向を大切にしている。	
26		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族からの情報、日々の生活で得られた情報をスタッフ全員で共有し把握している。		
27		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を細かくとり、1日のリズムを把握し、小さな心身状態の変化も、看護ノート、連絡ノートで、スタッフ全員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々スタッフで話し合い、本人や家族からの要望を聞き、月1回各チームでその時の本人が必要とされるケアの話し合いを行っている。必要なときには、医師や看護師、リハビリの先生からも意見を頂いている。	職員は担当制で利用者のケアにあたり、月1回各チームで本人が必要としているケアを話し合い介護計画を作成している。必要時に医師は、看護師等からも情報を得ている。1階と2階職員全員で情報の共有をしている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践・体調面など、色を変えながら記録し、チーム会議やカンファレンスなどで、意見交換や見直しに努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の要望に応じて、訪問リハビリを取り入れたり、個々の生活に必要なサービスを探し、支援している。また、外泊やご家族の宿泊などその時のニーズに対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前から利用していた地域資源、(カラオケ教室、温泉、美容室など)入居後も変わらず出かけて行き、地域との関係を絶たない様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医による月2回の往診、訪問看護との連携体制を整えている事等の説明を行い、納得頂いている。緊急時の受診付き添い、整形外科、皮膚科、眼科など状況に合わせて受診している。	入居の際にかかりつけ医の説明を行い、同意を得ている。受診の際は必ず職員も同行し、症状の説明を行う等、医師の診察に立ち会っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記録や看護ノート、バイタルチェック表を利用し情報の共有に努めている。訪問看護を利用する際は、別表を利用し看護師への的確な情報提供が出来るようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	毎日お見舞いに行き、馴染みの関係を絶やさないようにしている。又、担当医師、看護師、理学療法士等と情報を共有し、本人の状態把握を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族の意思を十分に理解し、出来る限りの対応を家族や医師、訪問看護ステーションと職員が連携を取り実践している。情報はチーム会議やカンファレンスで共有しその方の望まれる終末期を迎えられるように努めている。	現在までに14名の方の看取り経験がある。入居の際に看取り支援についての説明を行い、家族や医師・訪問看護ステーションの職員・職員間で話し合い、連携を取っている。年に1度はご家族の意思確認をしており、望まれる終末期を迎えられるよう支援している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けたり、急変時対応マニュアルを作成し、いつでも見て対応出来る様にしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防士の指導の下、夜間の想定もしながら火災訓練を行っている。隣接する他施設や地域にも回覧で協力依頼を行っている。また、男性職員は全員防火管理者の講習を受けている。今年から防災委員会を立ち上げ、火災だけでなく、危機管理、震災、水害、台風などの災害にも備えている。	火災訓練は、夜間想定も含め年2回消防署の指導の下行われている。地域の方が参加されたり、消防車が来る事もある。職員は年2回の訓練に、必ず1回以上は参加する様にしている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「さん付け呼称」をし敬語で話すようにしている。訪室は同意、許可を得てから行うようにしている。周囲へ配慮し、その方に合った声掛けを行っている。	部屋に入る際はノックし、同意をもらって入室、掃除を行うなど、プライバシーの確保に努めている。排泄誘導も他に気付かれ無い様なさりげない声掛けに努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	むやみに干渉しないようにし、行動をする前にはその都度、本人の意思を確認し自己決定が出来るように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「あるがままに 楽しく ゆったり」との家訓に添った支援を行うように努めており、個人の生活ペースを第一としている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から使用していた化粧品や洋服を身につけられている。ケアメイクもあり楽しい時間を過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや味付け、盛り付け、配膳、片付けとそれぞれが出来る部分をお手伝いして頂いている。献立を一緒に考えたりし、食事が楽しみの1つになるように努めている。	毎日近くのスーパーに利用者と一日分の買い物に出掛けている。食事の準備等は利用者が出来る部分を行い、職員と一緒に楽しくながら行われている。栄養士である事務長がメニューを確認し指導している。月一回の行事食や外食も行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食品・栄養に気をつけながら献立を立てている。個別のチェック表に記入し摂取量を把握している。必要に応じて、刻みやトロミ、また補助食品などを提供している。10時と15時には、水分補給として寒天を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診が受けれるようになっている。口腔ケアは、個人に合わせて歯ブラシ、スポンジブラシ、歯間ブラシなど使い分けている。また、定期的に義歯洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ案内を基本とし、自立できるように努めている。個別の排泄リズムを把握できるように、チーム内やカンファレンスにて情報の交換をおこなっている。パット等もその都度検討し、その方に合った物を使用している。	一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者に合わせて声掛けをし、日中や夜間、季節に応じてパット等の種類を変えるなど工夫して排泄の自立に向けた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全スタッフが、薬には頼らない対策を心掛けており、寒天の提供や食事の工夫を行っている。また、無理のない程度で、散歩や体操などの運動も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	楽しみにされている方もおり、毎日時間を問わず入浴できるようにしている。個別入浴になっており季節のゆずや菖蒲なども取り入れゆったりとした時間を楽しまれている。	毎日入浴を希望される方や一番風呂を希望される方、入浴介助の職員を指名される方に臨機応変に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを大切にしながら、日中の過ごし方にも工夫している。また、室温や寝具の調節に気を付け快適に休んで頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフによって薬に関しての理解はバラつきがあるが、服薬中の薬は個人シートに記入したり、処方変更時は看護ノートに記入し全スタッフで共有出来るようにしている。また、チーム会議やカンファレンスで薬についての話も行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から話を聞き、チーム会議やカンファレンス、気付きシートにて情報の共有を行い、畑が好きな方にはホームの菜園のお手伝いをして頂いたり、ゴルフが好きな方にはパットゴルフをしてもらったりと、積極的に取り組み、個別の支援としてケアプランに反映させている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は鍵を掛けずに自由に出入りできる環境にしている。外出の際は必要に応じて付き添い行っている。また月に1度は外出の機会を設けており、ご家族にも声を掛け一緒に出掛けられるように支援している。	車で祭りを見に出掛ける等楽しんでいる。家の鍵を持たれている利用者へは帰宅時の送迎等も行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、毎月お預かりしているお金の中から、本人の希望に応じて、お金を渡し自由に買い物が出来るようにしている。また、必要に応じて付き添いを行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は自由にできるようになっており、ご家族との会話が困難な方もスタッフが間に入り、ご家族とのコミュニケーションが取れるよう、その方の能力に合わせ支援している。携帯電話を持っている方もおり、ご自分で連絡を取られている。書かれた手紙をお預かりし投函も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる生活音は大事にし、過剰にならないよう全スタッフで気をつけている。特に季節の変わり目には室温調整をこまめに行っている。季節の花や飾り物をして、四季を感じて頂ける様に工夫している。	菜園の緑、穏やかさを感じるリビング等、居心地のよい共用空間づくりを心掛けている。浴場の脱衣所は温度変化を防ぐ工夫がされている。トイレは職員も利用しており常に清潔に保たれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中でもソファや畳、椅子など自由に過ごせる場所がある。ひとりで過ごしたり、話をしたり、時には皆でゲームやカラオケを楽しまれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が好んでいた物、使用していた物を持ってきて頂き居室内に置かれている。安心して過ごせる居心地の良い空間作りに努めている。	利用者の居室には使い慣れた好みの物が設置されており、個性が感じられ、居心地良く過ごせる居室となっている。夜間室内灯が明るくて気になる方には、スタンドを置いたりしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室などには必要に応じて手摺をつけている。また、テーブルや椅子などの高さも個人に合わせて調節し、自立した生活が送れるように支援している。		